wa

アート、みつけよう！

autumn
2013
vol.59

特集　福岡発！
秋のまちなかアートイベント

アーティストエッセイ
ピアニスト　辻井伸行

はこばなし
アルバス

福岡市文化芸術振興財団
FFAC
Fukuoka City Foundation for Arts and Cultural Promotion

artist essay

©Yuji Hori

辻井伸行

ピアニスト

Nobuyuki Tsujii　2009 年第 13 回ヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクールで日本人として初優勝。11 年カーネギー・ホールの招聘リサイタル、13 年イギリス最大の音楽祭「プロムス」でも歴史的成功を収める。エイベックス・クラシックスより継続的にCDを発表し、2 度の日本ゴールドディスク大賞を受賞。作曲家としても注目され、映画『神様のカルテ』で「第 21 回日本映画批評家大賞」受賞。

読者の皆さん、はじめまして。辻井伸行です。今年の夏はひときわ暑くて、体調維持に苦労した人も多かったのではないでしょうか。日本が猛暑だった7月、僕はヨーロッパにいました。ロンドンでは、イギリス最大の音楽祭「プロムス」に出演して、7千人近いお客様の前で演奏しました。僕の出番が来て、スタッフの人がピアノの蓋を開けようとすると、お客様から「せ～の！」みたいな掛け声がかかるんです。お祭りっぽい雰囲気が楽しかったです。共演したBBCフィルハーモニックとは、2011年3月に佐渡裕さんの指揮で日本ツアーをしましたが、その途中で東日本大震災が起きてしまい、オーケストラはBBCからの指示で急遽帰国、残りのコンサートは中止になりました。地震が起きた時、オーケストラを乗せたバスは横浜のベイ・ブリッジの上にいて、ものすごく揺れたそうです。でも彼らは、悲しみと不安に包まれていた日本でコンサートの約束を果たせなかったことの方を残念に思っていて、帰国後すぐに、もう一度日本に行くと決断して、今年4月に実現しました。「プロムス」の舞台では、指揮者は日本ツアーとは別の方でしたが、そんな経緯があったので、みんなが特別な思いで一つに結ばれた演奏になったと思います。

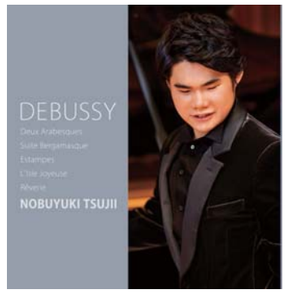
美味なる音色のフルコースを

ロンドンの前には、ベルリンでCDを録音しました。一年かけて弾き込んだドビュッシーのプログラムですが、また新たな発見があって、自分で言うのは恥ずかしいのですが、なかなか良い出来栄えになったと思います。

これから涼しくなると、いよいよ芸術の秋です。学校などでは春に新年度が始まりますが、コンサートでは秋が新シーズンの始まりで、僕もリサイタルのプログラムを一新します。コンサートで演奏したいと思っている曲はたくさんありますが、アンコールを含めて2時間程度に絞り込まなくてはなりません。その上、どんなに素晴らしい曲を集めても、演奏する順番によっては、魅力が一層引き立つこともあれば、打ち消し合ってしまうこともあります。僕はおいしいものを食べるのが大好きなのですが、コンサートの曲順を考えるのは、レストランのコース・メニューを考えるのに似ていると思います。僕は、ピアニストにならなかったら、修行してレストランのシェフになって、お客様に喜んで頂く料理を創っていたと思います。新しいプログラムが皆様の口に合いますように！

新シーズンでもう一つ楽しみなのは、来年1月25日、カーネギーホールでのコンサートです。今回はニューヨークのオルフェウス室内管弦楽団との共演ですが、彼らはどんな曲でも指揮者無しで演奏するんです。皆すごくうまくて、普通のオーケストラの何倍もリハーサルをするそうです。一体感があって、生き生きとした、素晴らしい演奏になると思います。

2月には、同じ顔ぶれでの日本ツアーもあります。是非お越し下さい。



『月の光～辻井伸行 plays ドビュッシー』（エイベックス・クラシックス）。優しく煌めく音色と絶妙のハーモニクス！

<ショパン＆リスト>
辻井伸行 日本ツアー
2013 年 11 月より全国 19 公演
12/17（火）　大分 iichiko グランシアタ
★9/20 チケット発売開始
12/19（木）　福岡 福岡シンフォニーホール
★9/14 チケット発売開始
12/21（土）　佐賀 佐賀市文化会館
★9/28 チケット発売開始

辻井伸行＆オルフェウス室内管弦楽団
2014 年 2 月より全国 10 公演
問：チケットスペース　03-3234-9999

辻井伸行公式サイト
http://www.nobupiano1988.com/

アーティスト一問一答

女性を描くことへの想いは？

女性はあらゆるものを創造する「母」であり、太陽のような存在です。絵の中の女性は、私が家族や周りからもらっているようなかけがえのない愛を、みんなにも届けてくれる私の分身です。

創作エネルギーの源は？

昔からよく行く中南米の陽気さ、情熱、色彩感覚にはインスピレーションを受けています。それと日々感動すること…想いがあふれて、いつも枠からはみ出しちゃうのですが（笑）

オリジナルキャラクター「そるちゃん」はどんな子？

2年前にブラジルで、日系の方々が抱く「美しい日本」のイメージに触発され、生まれました。日の丸＝太陽（EL SOL）の天使です。ペルーの個展では持ち帰ろうとする人続出の人気者で（笑）これから世界中の国と日本をつないでほしいです。

アーティストでよかったと思うことは？

「生みの喜び」を味わえること。体ごと、内面から、自分の世界の枠を超えて形にする…それは苦しくも最高の感覚です。

今後どんなことをしていきたい？

今年、自分の会社YURI WORLDを設立しました。経営者として、世界中の人がhappyになる商品やサービス、イベント、飲食など様々な形で作品を広めていきます。そして、太陽のような究極の愛（TE AMO）を世に届けていきたいです。

表紙アーティスト紹介

吉永有里

Yoshinaga Yuri

PROFILE

アーティスト。1984年福岡県生まれ。九州産業大学卒業。イラストレーターとして活動後、2007年現代美術アトリエ「3号倉庫」に所属。自由に枠を超えた大胆な造形美術を手がける。広告、内装、ファッションとのコラボレーションなど幅広く活動中。

2012　個展「EL SOL」(ペルー)
　　「紫川アート市」、福岡PARCO「天神ラボ」メインアーティスト
2013　博多川「hakatasakura」メインアーティスト/個展「TE AMO」(福岡)
　　株式会社YURI WORLD設立

今後は11月にドレスブランドQuantizeとのコラボドレス発表、12月に博多駅クリスマスイルミネーションにてARTマーケット開催など多数予定。

上：個展「TE AMO」（2013年ギャラリー貘）での作品。（写真・高橋さおり）
右：オリジナルキャラクター「そるちゃん」。今年10月に台湾の台北駅に『そるちゃんのケーキ屋さん』（仮）がオープン！

カフェ江戸マッチョ http://www.edomacho.com/cafe/

有里さんが経営するアートカフェ。店内では有里さんや兄弟３人の作品のほか様々なアーティストの作品の展示・販売を行う。サイフォン式コーヒーやランチ、アートケーキ（要予約）が人気！
福岡市東区松香台2-1-3ラティーナ2　1F TEL：092-672-1764
平日11:00-20:00 土日祝10:00-20:00

ARTLIER

観る人にも、創る人にも便利！
文化芸術情報館アートリエ

イベントのお知らせ

【アートリエ・アトリエ】 秋のアートワークショップ！

芸術の秋、みんなでアーティストになっちゃおう！子どもたちの想像力と表現力を楽しく引き出す体験講座です。先生は、みんな福岡のアーティスト。どうぞお気軽にご参加ください！

1　ソーラーパワードローイング
太陽の光を使って絵を描こう！

太陽の光と虫眼鏡を使って絵を描いてみよう！
自然のエネルギーで何ができるかを考えます。
日時：10月14日（月・祝）13:00～15:00　参加費：500円（材料費）
会場：博多リバレイン屋外広場（フェスタスクエア）
講師：宮田君平（アーティスト、アートコントラクター）
18段の跳び箱制作＆パフォーマンスなど、国内外でユニークな表現活動を行う。

2　魔法の額縁
魔女の呪文にかかって絵になろう！

オリジナルの額縁づくりに挑戦！
魔法がかけられた額縁に入って絵になりきります。
日時：11月4日（月・祝）14:00～16:00
参加費：500円（材料費）　会場：財団会議室（福岡消防会館7F）
講師：吉永有里（アーティスト）
愛をテーマとする創作活動のほか、カフェ等も経営するマルチな才能の持ち主。

3　むすびかざり
身体を結び飾るアクセサリーをつくろう！

頭、手、首など自分の身体の部位に、
結んでできるアクセサリーを作ります。
日時：11月9日（土）①13:00～　②15:00～
参加費：500円（材料費）
会場：文化芸術情報館アートリエ（アジア美術館7F）
講師：武内貴子（アーティスト）『結ぶ』をテーマに、空間を演出するインスタレーションの制作やワークショップを行う。

問い合わせ先　TEL: 092-263-6300 / E-mail: plan@ffac.or.jp　　申込方法などの詳細はWEBアートリエをご覧ください。 http://artlier.jp/

wa vol.59　2013年秋号（2013年9月25日発行）

発行　公益財団法人 福岡市文化芸術振興財団
〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3-10
福岡消防会館6F
Tel: 092-263-6266　Fax: 092-263-6259
www.ffac.or.jp

発行月　3・6・9・12月（季刊）
発行部数　25,000部
配布場所　九州・全国の美術館・博物館、文化・アート関連施設、文化芸術情報館アートリエ、福岡市情報プラザ、市内公共施設、福岡市営地下鉄各駅ほか

編集　内田光香
編集協力　デザイン 中川たくま / イラスト 中川なつき（青い月）
撮影　泉山朗士（表紙・P2・P6）
印刷　大成印刷株式会社
©（公財）福岡市文化芸術振興財団
本誌掲載記事・写真等の無断転載および複写を禁止します。

ART TRIP in Kyushu

福岡発 秋のまちなか アートイベント

この秋、福岡では街を舞台にしたアートイベントが目白押し。国内外のアーティストの作品が美術館やギャラリーを飛び出して街を彩り、街ではユニークなイベントで盛り上がります。ゆっくりじっくりアートを楽しみながら街を歩けば、福岡の新しい魅力に出あえるはず。

10月1日(火)～31日(木)

FUKUOKA ARTWALK アートをたずねる月 2013

アートのチカラで人に元気！街に活気！

ギャラリーが点在するけやき通りからスタートし、今年で10周年。今年も中央区を中心に、多くのショップやカフェ、美術館、ギャラリー、アーティストなどが参加してエリアごとに多様なアートイベントが展開します。イベント名の通り、アートマップを片手に、スタンプラリー式に街を「歩く」のが醍醐味。創る人、空間を提供する人、鑑賞する人みんなで楽しもうというお祭りムード満点。「この1ヶ月間、アートを思う存分満喫してください！」(事務局 / 西牟田さん)

福岡県立美術館　10/5(土)～11/10(日)
「江上茂雄 ― 風ノ影、絵ノ奥ノ光」展

スタンプラリーの景品、ガラスブローチ。
景品には魅力的なアート作品が続々！

ウェブサイト　http://www.fukuoka-artwalk.com/
Facebook　https://www.facebook.com/FukuokaArtwalk
※散策マップは、市内観光案内所や参加店舗にて配布
FUKUOKA ARTWALK事務局
Tel: 092-751-9128

10/19(土)～10/20(日)

WATAGATAアーツフェスティバル2013 海の拡張

行ったり来たり、日韓アートのキャッチボール

福岡と釜山のアーティスト交流イベントとして2010年にスタートしたWATAGATA。「ワッタガッタ」は韓国語で「行ったり来たり」の意。これまで交互の街中でアートイベントを行なってきました。今年は、2014年の福岡トリエンナーレと釜山ビエンナーレ開催年に向けたシンポジウムや関連展示を開催。旅することがアート体験になる新企画「アートパスポート」やアート交流の未来について、ワクワクするようなアイデアが飛び出します。「アジアアートの新たな繋がりにご期待ください」(事務局 / 宮本初音さん)

2011 年福岡・あじびホールで開催したシンポジウムの様子

2012 年釜山・沿岸旅客ターミナルでの写真展示（作品 / 山本康介）

ウェブサイト　http://watagatainfo.wordpress.com/
Facebook　https://www.facebook.com/WATAGATAinfo
WATAGATA福岡プサンネットワーク福岡事務局
Tel: 092-986-4888 (担当:宮本)

10月12日(土)～30日(水)

第4回 まちなかアートギャラリー福岡2013

アートで街の魅力を再発見！

天神～博多間の公共空間を「ギャラリー」として、若手アーティストたちが毎年ユニークな作品を発表してきました。2011年から4回目となる今年のテーマは「文化を生み出す現場をたどる、つくる」。街の文化を伝える各スポットに、その会場ならではのアート作品を展示します。「今年は、これまで以上に幅広いジャンルの作家が参加します。彼らの作品を“眼鏡”に、ルートを歩きながら、いく通りもの街の姿を楽しんでくださいね！」(事務局 / 三好剛平)

石田真吾 / 屋形船「中洲はかた舟」
(2012 展示作品)

TRIANGLE PROJECT/
警固公園工事壁（2012 展示作品）

ウェブサイト http://mag.fukuoka.jp/
Facebook　https://www.facebook.com/magfukuoka
※散策マップは市役所やルート上の各スポット等で配布
まちなかアートギャラリー福岡2013事務局
Tel: 092-734-5462 (担当:三好)

街が丸ごとアート空間に！

各イベントの最新情報はここで！

★文化芸術情報館アートリエ

10/1～10/31まで、「2013秋のまちなかアートイベント・インフォ」コーナーを設置し、パンフレットやマップを配布しています。お気軽にお立ち寄りください！

福岡アジア美術館7F　10:00～20:00　水休
Tel: 092-281-0081

FUKUOKA ARTWALK アートをたずねる月2013

福岡市中央区を中心に、市外でも多数

今年のイチオシ！

❶ セルクル薬院(中央区薬院 1-7-12)
今年のプレゼント交換所。アンティークショップ「eel」、店と家のデザイン、リノベーションの「CODE STYLE」、新旧・国内外問わずイイものを揃える「PATINA」が入店。まずはここでパンフレットをもらいましょう！

❷ 天神中央公園「FUKUOKA ART MARKET」
10月19日(土)・20日(日) 10:00～16:00
FUKUOKA ARTWALK10周年企画として、福岡市緑のまちづくり協会を中心に行う『グリッピキャンペーン』と連携して開催。緑の芝生の上に個性的な出店が並び、アートなお買い物を楽しめます！

❸ synapse(中央区今泉1-18-25季離宮中1F)
最終日にクロージングパーティーを開催します。どなたでもウェルカム！
10/31日(木) 19:00～22:00
会費:大人¥2,000円/学生¥1,000円(1ドリンク・軽食付き)

WATAGATAアーツフェスティバル2013　海の拡張

福岡アジア美術館ほか

❶ メインイベント< パブリックディスカッション >
10/19(土)午後　アジアアートプロデュースネットワーク会議
地方都市での国際交流文化イベントの報告など。
10/20(日)午前　2014アートパスポートプロジェクトのキックオフ
※途中でパフォーマンス(音楽・ダンス)も披露されます！
会場: あじびホール(福岡アジア美術館8F)　対象: 「アート」「釜山」「芸術・文化交流」に関心のあるすべての方
参加費: 無料
パネリスト(予定):
○スウェイン桂子(NPO法人Co.D.Ex)　○宮川敬一(Gallery SOAP)　○野田恒雄(トラベルフロント代表)
○林暁甫 (元BEPPU PROJECT事務局長)　○三好剛平(まちなかアートギャラリー福岡ディレクター)
○キム・ヒジン(TOTATOGA代表)○イ・サンソプ(釜山ビエンナーレ事務局長)○チョ・ヒョンス(釜山文化財団)
○キム・ヒェリン(トン代表)他
関連展示:
❷ 10/14(月)～20(日) 鈴木淳展(紺屋2023)
❸ 10/18(金)～24(木)ユン・ビルナム展(リノベーションミュージアム冷泉荘)

第4回 まちなかアートギャラリー福岡2013

天神～中洲川端

今年の参加作家(予定)

❶ EYECON CREW / ライブペインティング、グラフィティ
ペインターたちが週末ごとに臨場感あふれるライブペイントを披露。
❷ Henry&Mathew / 絵画、ライブペインティング
江戸時代には時を告げる大砲が置かれ、60年代には文化を発信した公園を舞台に作品を制作。
❸ WATAGATA連携企画 / 韓国招待作家によるハイレベルなパフォーマンス。ダンス(contemporary dance ZOOM、July Dance Theater)、映像(ビョン・ゼギュ、ソン・ジンヒ)、音楽(ヘグム)、アートマーケット(クサボン、ジョン・ヘジョン)ほか※予定
❹ 佐々木充彦 / 漫画
まちの記憶を巡る漫画を6会場(予定)で１話ずつ配布。全て巡ると漫画が完結！
❺ Y氏 / コラム
各会場で“Y氏”の視点で綴ったコラムを読みながら巡るスタンプラリー。街の新しい一面を発見！
❻ 谷尾勇磁 / 写真、インスタレーション
かつて病院のあった「コインパーキング」と、その病院に関するエピソードをもつ「寿橋」を結ぶ、都市の記憶をめぐる作品。(予定)
❼ 望月ゆうさく
街頭に非日常を立ち上げる“大道芸”を、映像とコラボレーションした新たな作品として披露。
※④～⑦の詳しい会場は、配布マップなどでご確認ください。

はこばなし

劇場、ホール、ライブハウス…　福岡の文化は街の“はこ”から。
はこを愛してやまない人へのインタビュー。

#10 albus
つながりを育む、まちの写真屋

アルバスをつくった経緯は？

私が写真学生だった頃、友人を亡くしたのをきっかけに、友人のいた富山県氷見市に通うようになりました。約10年間、そのまちの変化や子どもたちの成長を撮り続けるうち、まちの人たちとい関係ができて「写真をこんなふうに人との関係づくりに役立てられたら」と思ったのが原点です。その数年後に、九州大学の子どもに関するプロジェクトに参加して「人が集まる場のつくりかた」を学ぶ機会があり、「写真」「場（はこ）づくり」「子ども」に関する私自身の経験をもとに2009年にアルバスを開店しました。写真屋としてフィルム現像やプリント、スタジオでの家族撮影などのほか、スクールやイベントの企画・運営をしています。

まちの人たちとの関わり方は？

写真は、その人の心が動いた時にシャッターを切るもの。写真からは、家族や生活、人生の節目の出来事などが見えてきます。アルバスで大切にしていることは、受付でお客さんに大切な写真を見せてもらいながら、言葉を交わすことです。互いに顔が見える存在でいることで、何か困ったことがあった時に役に立てるのかなと。まちの助け合いについて真剣に考え始めたのは、開店2年目に、九州大学と連携して「まちづくりスクール」を開催してから。まちの中にある店（＝場そのもの）の役割を探りました。私、大阪育ちですし最初は周囲からおせっかい、と思われてたみたい（笑）。今では、鍵を忘れて家に入れない子や、「屋根の修理を手伝ってほしい」というおじいちゃんまで、色んな人がふらりと来てくださるようになりました。そんな方々は、おせっかいを望んでいるようにも思えます（笑）。

運営上、大事にしていることは？

「写真屋はなくなっていく」のが通説で、アルバス開店の年も、新規開店は全国で私たち一軒だけでした。それでも写真屋として、印画紙でプリントする写真の魅力を伝えています。何事も効率優先で、本当に美しいもの、必要なものが消えていってしまうことへの危機感を共有できる人が一人でも増えたらと思っています。またその思いは、アルバスの場全体を通して伝わっていくんだろうと思います。イベントなどでも「何を伝えたいか」を軸に、みんなで考える時間を持てたら嬉しいです。「場」は生きものですから、関わる人たちみんなによって成長します。だから、高齢者や、障がい者、子ども…普段写真屋に用がない人も気軽に来て、なるべく多くの人と人とが出会えるようになればと考えています。

福岡にはどんなはこが必要でしょう？

新たにはこを増やすより、今あるはこ（場）がもっと魅力的になるといいですね。地域の問題をアートという創造力によって変えていく機能をもつ開かれた場へと。なにより、それを運営できる人を育て、サポートする仕組みが必要だと思います。以前アメリカで、公共のイベントがボランティアや寄附だけで成り立っているのを見て驚きました。日本でも、はこを活用していくことに対してもっと当事者意識が生まれるといいなと思います。運営する人も、参加する人も、どちらでもない人も、そこに「はこ」があるというだけで、自分と何かしら繋がっていることが実感できれば、もっと可能性が広がっていくのではないでしょうか。

アルバスの顔「受付」

親子向けイベントではこの賑やかさ！

話し手
オーナー　酒井咲帆
兵庫県出身。大阪でギャラリーの企画・運営に携わる。九州大学ユーザーサイエンス機構の子どもプロジェクトに参加したのを機に、2009年子どもとアートに深く関わる写真ラボ「albus」をオープン。

albus| アルバス　12:00 ～ 20:00　不定休　〒810-0023　福岡市中央区警固 2-9-14　Tel: 092-791-9335　Fax: 092-791-9336　http://www.albus.in/

あのアーティストに会いたい！

no.2

成田 鐘哲さん
SHOTETSU NARITA

PROFILE
1971　福岡県福岡市生まれ
1998　多摩美術大学大学院美術研究科修了
2001　ギャラリーとわーる（福岡）にて個展
2001-03　EXHIBITION SPACE 「3 号倉庫」（福岡）にて個展／グループ展
2003　「福・北美術往来」展（福岡市美術館・北九州市美術館企画）
2003　日韓現代美術展（アジア美術館）
2012　九州コンテンポラリーアート 2012（熊本県立美術館）
2013　福岡現代美術クロニクル 1970－2000（福岡市立美術館／福岡県立美術館）

「無」の向こうがわに見えてくるもの

「こんな場所でスミマセン」と、成田さんが顔を出したのは、福岡市内の古いマンションにあるアトリエ。ここで約10年間、油絵を描いてきた。キャンバスの表面は淡い色が幾重にも重なってクリアな画面となり、その中に奥行きある空間が広がっている。「平面と立体」にこだわる、成田さん独自の作風だ。

成田さんは5人兄弟の末っ子。「両親はもう完全に放任で（笑）。絵は気恥ずかしくて、こっそり描いていました」。2浪して美大に進学するも、初めは課題をこなすような感覚で取り組んでいた。「美術は訓練すれば何とかなると思っていたんです。でも3年目に同級生の作品を見て、芸術に対する意識が根底から覆されました」。

それは、現在は美術家である照屋勇賢氏による、沖縄の亀甲墓をモチーフにした紙の造形だった。「彼は、沖縄出身である自分のルーツを掘り下げて作品に落としこんでいました。同じ頃、彫刻家・西雅秋氏による、人間と自然をテーマに文明批評的な視点で作られた、鉄を風化させた作品にも感銘を受けました。それに対して、私のはただの加工品だなと…。この頃から、私にしかできない表現を模索し始めました」。

彼らのように、自分のルーツを掘り下げ、社会的主張を表現するとして、それは本当に自分が美術を選んだ理由になるだろうか。何にも依らない、ただの個として奥底からわいてくるものは何だろう…。制作に打ち込む中、成田さんは下塗りをしないキャンバスに油絵具を染み込ませるステイニングの技法に辿り着く。できるだけ“塗っている感じ”をなくし、茫洋とした光景を描くことで、描き手の主観やメッセージを排除する試み。そして無題…。観る人は、自分のあらゆる感覚と経験を手がかりに、その「無」の深みと向き合うことになる。

成田さんは現在、昼間は美術学校などで講師を務め、夜間や休日に作品を創る日々。「ありがたいことに定期的に展覧会に呼んでいただけることが活力になっています。一人で描いていて『ちっともダメだな』と悩むこともあるけど、そこで筆が止まると、どんどんそれが現実になっていきますから」。

絵だけで独立することは確かに難しいけれど、作品が売れるか否か以上に、作品と人が出合うこと自体に価値があると成田さんは思う。「今はメディアが多様化し、誰もが作品を発表できる時代。その中から私の作品に共感し価値を見出してくれる方を大切にして、コツコツ継続していきたいですね」。

個展に向けて新作に取り組む。展覧会は東京と福岡で定期的に行う。

成田さんの作品に出あえます！

みやま市教育委員会主催　山川中学校「学校美術館プロジェクト」

現代美術作家であり、現山川中学校美術教師の弥永隆広氏が企画したプロジェクト。生徒達が出展作家を選び（14名）、開催期間中は学芸員として作品の解説も行う。成田さんの作品は3～4点出品予定。

日時 / 11月2日（土）・3日（日）・4日（月）10:00～16:00　4日は15:00迄
会場 / みやま市立山川中学校　※作家は2日（土）に在校予定
問い合わせ先 / 0944-67-0743（弥永）

上：untitled / 2008年ギャラリー58（東京）
40×32cm（サイズ可変）綿布に油彩
左上：untitled/ 2010年共同アトリエ3号倉庫（福岡）
210×720cm　綿布に油彩・アクリル・陶土・蜜蝋
左下：untitled/ 2009年ギャラリー58（東京）
72×72cm キャンバスに油彩・アクリル・蜜蝋

★読者の皆さまの「この人に会いたい！」リクエストをお寄せください！　Fax: 092-263-6259　E-mail: ffacnews@ffac.or.jp　『wa』編集部

東北からの報告

せんだいメディアテーク発 sendai mediatheque smt

6 「考えるテーブル」にみる世界

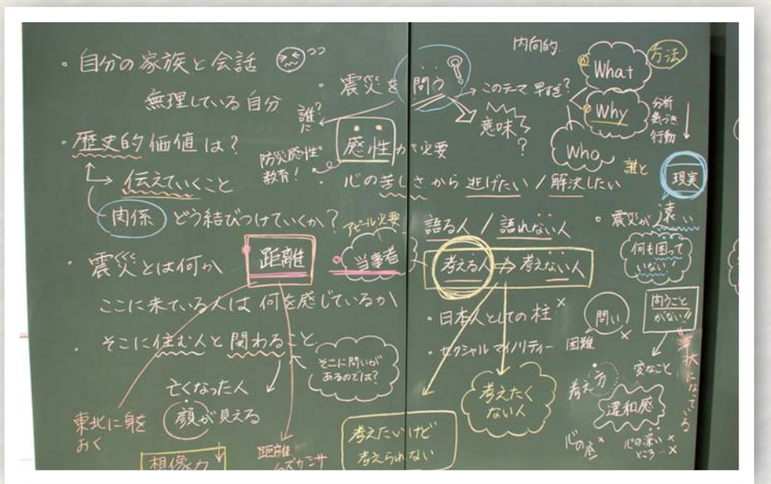
2011年5月3日。メディアテークは天井が落下した7階などを除いて一部再開しました。それからまもなく、1階の広場で人々が集い対話するためのプラットフォームとでもいうような「考えるテーブル」という事業を始めます。

これに先立つ4月。アーティストの豊嶋秀樹さんに連絡し、この事業を手伝ってもらうため、仙台に来てもらうようお願いしました。新幹線などはまだ不通で、彼は東京からバスに乗ってやってきました。そして、彼は人々が語らった結果をそれぞれに書き残すことができる、黒板でできた温かな質感の家具「考えるテーブル」を構想し始めました。[(*1)]

同じころ、「考えるテーブル」に参画してもらう活動のひとつとして、震災以前から市民グループによって取り組まれていた哲学カフェ「てつがくカフェ@せんだい」[(*2)]のみなさんに、再開を呼びかけました。

震災直後、私自身含め、多くの人が経験したことのない事態にとても戸惑っていたように思います。あの状況を「それぞれが持っていた世界観が壊れた」と喩える人もいます。そのようななか、TVや新聞から情報を得るだけではなく、目前にいる生身の誰かの話を聴き、また自身も話すことで、個々の世界観を取り戻す。あるいは、自分とは異なる視点を受け止めながら、自身の考えを整理していく。そんな機会が必要なように思えました。いいかえると、あの事態についてひとりで考え込み、整理できたかのようになることの方が不自然に思えたのかも知れません。

1階の広場は、来館するほぼすべての人が横目に見ながら通り過ぎていく、いわば「往来」です。そのような場所で少なくて30人ほど、多い時は100人近くがこのテーブルに集い、ともに過ごしてきました。2年半を経てまもなく25回目を迎える「てつがくカフェ@せんだい」。さまざまな社会的属性を越えた老若男女が集まり、言葉のズレによる軋(きし)みを帯びながらも、互いへの敬意を損なうことなく丁寧になされる言葉の積み重ねは、時にたとえようのないほどのダイナミズムを表すことがあります。その現場に立ち会ったとき、あらためて「世界は信じるに値するものだ」と感じる私は、素朴に過ぎるのでしょうか。



てつがくカフェ@せんだい 第21回「震災を問い続けること」の板書（2013年5月6日開催）

(*1) 人が集い語り合いながら震災復興や地域社会、表現活動について考えて行く、対話のための場を「考えるテーブル」と題し、7階スタジオに開いています。
http://www.smt.jp/thinkingtable2012/

(*2) 「哲学とは、わたしたちが通常当たり前だと思っていること（自明なこと）からいったん身を引き離し、「そもそもそれって何なのか」といった遡行的な問いを投げかけるところからはじまります。「てつがくカフェ@せんだい」では、そのような問いを参加者どうしが共有し、「哲学的な対話」をとおして、自分自身の考えを逞しくすることの難しさや楽しさを体験してもらうことを目的としています。」【てつがくカフェ@せんだい ホームページより】
http://tetsugaku.masa-mune.jp/

甲斐賢治

かい けんじ●せんだいメディアテーク 企画・活動支援室室長。大阪生まれ。主に地方行政の文化施策に従事し企画、運営に携わるとともに、NPO 法人 remo、recip、art NPO link、hanare などの設立と活動に参加、社会活動としてのアートに取り組む。2010 年春より現職。平成 23 年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。

せんだいメディアテーク　www.smt.jp

2001年開館。美術や映像文化の活動拠点として、すべての人々がメディアを通じて自由に表現・交流するためのさまざまな公共サービスを提供する。記録・発信による支援活動を行う「3がつ11にちをわすれないためにセンター」、人々が集い語り合いながら震災復興や地域社会、表現活動について考えていく場「考えるテーブル」などのプロジェクトも行われている。

アートが変える人とまち

コミュニティ×アート

アーティストと住民が交流することで、まちが元気になったり、キラリと輝きだしたり…まちづくり、福祉、教育などさまざまな場面でアートが生み出す“楽しい変化”とは？

視座が変わるとまちが変わる

コミュニティが何か問題を抱えているときに大切なのは、人の「ものの見方」が変わることです。来街者が減少している青森県八戸市の中心街では、2010年からさまざまなアートプロジェクトを行なっています。

商店の通りに面した窓や壁に、店の方々の噂をフキダシにして「ここのマスター、昔アフロだったらしいよ」などと貼り出してしまう山本耕一郎氏のプロジェクトは、通行人とお店だけでなく、お店の人同士にも再発見をもたらしました。まちの固定化した人間関係に風が通り、コミュニケーションが再構築されるきっかけを作ったのです。また、八戸の横丁で行なわれている「酔っ払いに愛を」というショートパフォーマンス・フェスティバルでは、コンテンポラリーダンスを観たお疲れ気味のサラリーマン酔客たちが、一瞬で別人のように目を輝かせた現場も目撃しました。こんな現場が今、八戸のコミュニティを少しずつ変えています。

東日本大震災で町の建物の約70％が失われた宮城県南三陸町で、私は中心街が洗いざらい流失した跡地に、白い切り紙のような畳大のボードを海に向けて61枚展示しました。地元の神棚飾りの「きりこ」の様式を真似て作ったもので、その家の人が苦境を乗り越えようとがんばっている姿を「父のパン復活、次代へバトンをわたす」「生きる喜びを分かち合いながら」などの短文で表し、家ごとのエピソードや家宝の絵柄と共に展示したのです。

このきりこは、町の記憶のよすがとなりました。代々その場所で生きてきた誇りやアイデンティティを町のみなさんで確かめ合うコミュニケーション・ツールとなり、再出発のために奮闘する方々の背中を押したのではないかと感じています。

コミュニティにおけるアートは、人があらためて何かを発見し、変化するきっかけを創り出すことができるのです。

「アートの力」とは？

自分自身を映す鏡、発見と変化を促す力

吉川由美

プロデューサー、演出家。(有)ダ・ハプランニング・ワーク代表取締役、八戸ポータルミュージアムはっち文化創造ディレクター、ENVISI代表。東日本大震災で被災した宮城県南三陸町にて、アートを通じた復興支援活動を展開している。
http://www.da-ha.jp
http://www.envisi.org

季刊 福釜藝術放談

계간 부산-후쿠오카　예술방담

ハレからケの交流を目指して

キム・セイルさんに出会ったのは偶然だった。2011年2月のことだったと思う。韓国・釜山市内の劇場に、ある芝居を観に行った。釜山ではよく駅構内や街角で公演案内のポスターを見かける。私は当時、音楽で言うなら「ジャケ買い」でCDを購入するような感じで、面白そうな芝居のポスターを見かけるとよく観に出かけていた。

当然、作品の予備知識は何もない。いつも韓国語のセリフの聞き取りが障害だったが、不思議とよい芝居ほど、すべてのセリフが聞き取れなくても作品の構造的なことなどは何となく読み取れることに気づいた。逆に日本ではセリフの意味にとらわれすぎて芝居を観ていたようだ。より深い理解にはセリフがすべて聞き取れるにこしたことはないが、美術作品を鑑賞するように言葉に頼らずに芝居を観るのも、時には得難い体験ができるらしい。

その日もまっさらな状態で客席についたが、勝手が違った。舞台上で役者たちが日本語でしゃべり始め、ハングル字幕が壁に映し出されたのだ。作品はジャン・ジュネの『女中たち』。「フランスの作品を日本語で演じている舞台を韓国で観る」という奇妙な体験だった。私はこの公演の成立が知りたくて、芝居がはねた後の打ち上げに潜り込んだ。そこで出会ったのがセイルさんだ。この公演には日本人俳優が多数出演しており、彼は韓国を代表する演出家イ・ユンテクさんの演出助手兼通訳として参加していた。聞けば、釜山出身で釜山を拠点に演劇活動を続けてきたが、2002年から日本に留学し、東京を拠点に演劇活動をしているという。酒を酌み交わしながら話を聞いていると、彼がこう漏らした。

「縁があって東京を拠点に活動し、こうして時々日韓交流の舞台などに関わっていますが、本当は故郷である釜山と近い福岡と演劇交流ができないものか、とずっと思ってきました。でも福岡に知り合いがいなくて…」

さて、福岡にも釜山との演劇交流を願っている人がいた。九州大谷短大専任講師で、劇作家・演出家の日下部信さんだ。今年2月、この二人が出会って意気投合。交流が動きだした。手始めに6月末、セイルさんを講師に迎え、福岡の役者を対象としたワークショップを行った。今後、日下部さんの脚本、セイルさんの演出で福岡の役者を起用した舞台を作り、釜山での上演を目指している。さらに、これを足がかりに釜山、福岡の演劇人が互いの土地で互いの作品に関わり合うことを狙う。作品そのものを頻繁に互いの地で上演するとなると資金も気力も大変だが、福岡の演出家が釜山の役者を使って作品を作ったり、釜山の劇団の作品に福岡の役者が客演したり…と裏方も含めていろんな組み合わせでそれぞれの土地の作品に少しずつ関わることは比較的無理が少ない。

何らかの形で釜山の演劇作品に福岡の演劇人が、逆に福岡の作品に釜山の演劇人が、関わっていることが日常的な風景になること。それは日韓の芸術交流がハレ（非日常）からケ（日常）へと移行することを意味する。そこに到達するには長い時間がかかるだろうが、彼らの試みは新しい福岡―釜山の歴史をつくろうという挑戦であり、私も歴史を目撃しているつもりでこの挑戦を見守りたい。

内門 博　西日本新聞記者。釜山駐在を経験し、韓国を愛する記者が、福岡と釜山の文化・アートシーンについて書き綴ります。

FFAC PROJECT REPORT

夏休み☆子どものためのパフォーミングアーツ「劇的っ！サマー」
10代のための演劇・ダンスのワークショップ

Acting! Dancing!

長期休暇を利用して、子どもたちにダンスや演劇の面白さを体験してもらうこの企画。そこで得られるのは、みんなで一つの作品を創りあげる喜び！　頭・体・心ぜんぶを使う楽しさ！この夏、テレビゲームでも快適な旅行でもない、いつになく熱くて濃い夏休みを過ごした子どもたちの様子をお届けします。

演劇に出あい、自由に表現する面白さを体験

「Ａｃｔｉｎｇ！」の特徴のひとつは、地元の劇団などで作家や演出家、俳優として活動している、いわゆる"演劇人（えんげきじん）"と呼ばれる人たちが、ファシリテーター（進行役）を務めていること。子どもたちは、本物の演劇を肌で感じられます。

「Ａｃｔｉｎｇ！」の目標は、何といっても子どもたちに演劇を楽しみ尽くしてもらうことです。そのために、それぞれの進行役が「演劇のココが面白い」と感じていることを核にしたプログラムを持ち寄りました。今回は、身体を使いながらイメージの世界で自由に遊ぶ楽しさや、「ウソ」から「ホントウ」を作り出せてしまう面白さ、違う人になってセリフを言う難しさと楽しさ、その場の状況を受け止めながら演じていく楽しさなど、演劇を様々な角度から楽しめるワークです。

子どもたちは、演技が初めてでも、ワークをしながら少しずつ演劇に親しんでいっているようでした。子どもたちの自由な発想は私たち大人には予想もつかないくらい面白く、思いもよらない表現や展開をたくさん見せてくれました。参加者の対象が小学校4年生から19歳までと幅広いこともこのプロジェクトの特徴ですが、難しいこともある反面、年齢の違いがお互いの新たな発想を刺激し合っているようにも感じました。

そして、いよいよ最終日の発表会。子どもたちのワクワクも最高潮！今回は「浦島太郎」の物語をモチーフに、4日間で見つけた演劇の楽しさをひとつの作品に仕上げました。発表会には保護者の方や「Ａｃｔｉｎｇ！」卒業生の方など、たくさんの方にご来場いただきました。見る人がいて、演じている人がいて、イメージが行ったり来たりする発表会は、まさに観客と演じ手で作られる演劇だったなあと感じました。

（事業コーディネーター　中原恵）

声

- 最初は緊張したけど、途中からみんなでテンションＭＡＸ！　全部が全部楽しかった。（参加者）
- みんな目がキラキラしていた。表現の学習は楽しいのが一番！（保護者）
- あの場でうまれた演劇の眩しさで、10代の参加者と演劇の出会いを作るための汗と涙は、お釣りがくるほど報われました。演劇ってやっぱり面白い！（全体進行役・古賀今日子さん）

今回開催した「Acting！」「Dancing！」プログラム

Acting!

4日間、演劇でとことん遊び尽くします！（古賀）

福岡を拠点に活動する俳優・演出家が、演劇の魅力をたっぷり伝える。未経験者も演劇好きもみんなウェルカム。

日時 / 8月1日（木）～4日（日）
会場 / ぽんプラザホール
参加人数 / 小学4年生～19歳の20人
進行役 / 高野桂子（village80%）、萩原あや（劇団HallBrothers）、村井善幸、山下キスコ（揮発タブレット / 演玩カミシモ）
全体進行 / 古賀今日子
pacha (play.art.communication.hakata)
アドバイザー / 柏木陽（NPO法人演劇百貨店）

Dancing!

動く、見る、考える楽しみを発見します！

かっこいいことも、かっこ悪いことも集めたオリジナルのダンスを子どもたちと一緒につくります。

日時 / 8月18日（日）～25日（日）
会場 / パピオビールーム
参加人数 / 小学4年生～19歳の21人
進行役 / 黒沢美香
＜プロフィール＞
黒沢美香＆ダンサーズ代表。ダンス活動のほか子どもの文化芸術体験事業などにも参加。受賞歴多数。日本のコンテンポラリーダンス界のゴッドマザーと称される。

プロの厳しさにふれてグンと成長！

夏休みも終盤を迎えた8月18日～25日の一週間、日本のコンテンポラリーダンス界のゴッドマザーと称されている黒沢美香さんを進行役に迎えて、10代のためのダンスワークショップを開催しました。

黒沢さんはただ子どもたちに振付を渡すのではなく、「次はどんな動きがいいと思う？」と、子どもたち一人ひとりに動きのアイディアを求め、考えさせていました。自発性がなく人任せで動いていた子どもたちも、日を追うごとに自分で考え工夫するようになる子が増えていきました。ワークショップ中に印象的だったのは、黒沢さんが鋭い観察力で子どもたちを見ながら、「できるまで頑張らせる」「子ども扱いしない」という徹底した指導をしていたことです。時には厳しい言葉も飛び、緊張感のあるプロの現場を見ているようでした。頭をフル回転させ、黒沢さんの言葉を必死に受け止めようとする子どもたちの顔は真剣そのものでした。

そして迎えた発表会。40分という大作を子どもたちは踊りきりました。子どもたちは口々に「難しかったし嫌になることもあった。でも最後まで頑張って、成功して、すごく気持ちいい！」と話していました。

©富永亜紀子　©富永亜紀子

10代の頃に、アーティストとの強烈な出会いがあること。学校以外の場所で、机上の学習では得られない体験をすること。それがどれほど貴重で重要な時間かということを改めて学んだワークショップでした。大げさにいってしまえば、集団でうまくやりぬく力や、社会に求められる奇抜な発想力は、まさにこうした経験から培われていくのだろうと感じました。今回の経験が、いつか気づかないところで作用し、彼らの原動力につながることを願います。

（事業コーディネーター　鈴木詩麻）

声

- 注意されるのは、自分が意識していないから。その自分を変えて、全てを意識しなくちゃいけないのが難しかった。みんなで本番を成功できて嬉しかった。（参加者）
- 続けることはとても大変です。嫌だなと思うことも、続けてきてよかったと気づくのはやっと大人になってから。沢山のチャンスをくれる周りの人に感謝して、これからも多くの体験をし続けてほしいです。（進行役　黒沢美香）

お知らせ

今年12月の冬休み中に「劇的っ！ウィンター」も開催します。最新情報は随時、財団ホームページで公開しますのでどうぞお楽しみに！

FFAC information

イベント情報

最新情報は財団ホームページへ　http://www.ffac.or.jp/

アートイベント

All about 九州アーツ:【ここ】でアートするということ

ここ九州で展開されている多種多様なアート企画、知られざるユニークなアート企画を「プレゼンテーション」「トーク」「パフォーマンス」の3部構成で一挙にご紹介します。九州発、九州初の情報発信型アートイベントです！

日時: 11月16日(土)　12:00〜20:00(11:30開場)
会場: あじびホール
料金: 無料　(要事前申し込み・定員になり次第締切)
対象: 芸術・文化団体、アートNPO、メディア関係者ほか芸術・文化に関心のある方

＜予定プログラム＞
○リアルライブ ①
　んまつーポス(ダンサー / 宮崎)
○5分プレゼン！(前半)
　公募で選ばれた九州各地のアートプロジェクトのプレゼンテーション
○リアルライブ ②
　山中カメラ (特殊写真家・パフォーマー / 大分)
○5分プレゼン！(後半)
　公募で選ばれた九州各地のアートプロジェクトのプレゼンテーション
○トークセッション
　ゲストを迎えて、九州のアート活動の現状、魅力、課題について語り合います。
　ゲスト:岡田利規、首藤ひとみ、中村滋延、山内泰
○リアルライブ ③
　橋口武史(ギタリスト / 福岡)

セミナー

アートリエ・ゼミ「ふくおか芸術家生活のすすめ」

アートの現場でプロを目指す人や経験値を上げてゆきたい人が、福岡でよりよい活動をしていくための知識やスキルを学べる活動者支援プログラム。すぐに役立つ「実践セミナー」、アーティストが抱える不安や疑問を解決する「シンポジウム」を通し、一緒にステップアップしましょう！芸術・文化に関心のある方ならどなたでも参加できます。

対象: アーティスト、マネージャー、制作者等(プロアマ・ジャンル不問)
参加費: 無料(要事前申し込み・定員になり次第締切)

＜実践セミナー＞
1.なぜあなたの助成金申請書は、通らないのか？
日時: 11月7日(木) 19:00〜21:00
会場: 福岡市文化芸術振興財団会議室(福岡消防会館7F)
講師: 宮田 智史(NPO法人ドネルモ事務局長)

2.メディア戦略セミナー
日時: 11月14日(木) 19:00〜21:00
会場:福岡市文化芸術振興財団会議室(福岡消防会館7F)
講師: 杉本 尚丈((株)TMエンタープライズ代表取締役)

＜シンポジウム＞
専門家による「お金」と「法律」をテーマにしたトークの後、さまざまなジャンルの現役アーティストによる対談や質疑応答を行ないます。
日時: 11月23日(土) 13:00〜18:00(予定)
会場: FUCA(中央区平尾)
講師: 田中冬一郎(地方銀行副調査役 / FP / NPO輪音プロジェクト)、永井幸輔(Arts and Law / 弁護士)ほか

※やむを得ない事情により、講座内容・講師が変更となる場合があります。

伝統芸能

「文楽いろはレクチャー」※　関連イベント

2014年2月1日(土)に開催予定の「文楽いろはレクチャー」の関連企画として、2つのイベントを実施します。

①「ニッポンの至芸 〜比べてわかる伝統芸能の魅力」

日本の伝統芸能では、同じ題材が元となった演目が数多くありますが、様式や演出が異なるとまた違った視点で楽しめるもの。今回は演目が同じ歌舞伎・文楽・能楽などの名作を取り上げ、動画や写真を交えながら、見どころを分かりやすく解説します。
日時: 11月30日(土) 14:00〜15:30
会場: 博多座地下２階　リハーサル室
講師: 小林 昌廣 (情報科学芸術大学院教授)
定員: 120人程度　(要事前申込み・先着順)　料金: 無料
※氏名・連絡先・参加人数を明記の上、メール(bunraku@ffac.or.jp)かFAX、往復ハガキにてお申し込みください。

②第3回「名作文楽・公演記録 特別上映会」
大阪・国立文楽劇場での記録用公演映像を上映します。文楽劇場公演ならではの、名人たちの妙技が見どころです。
日時: 11月9日(土)　①10:30　②14:00　※上映時間は2時間程度
会場: 福岡アジア美術館8F　あじびホール
料金: 無料　※事前申込不要
予定上映演目:「傾城阿波の鳴門」より「十郎兵衛住家の段」　ほか
※「文楽いろはレクチャー」2014年2月1日(土)イムズホール。文楽技芸員が太夫の語りや人形遣い等、文楽の見どころをやさしく解説。実演や体験もあります。

ダンス

2013福岡舞台芸術シリーズ FFAC PLUS+ 鈴木ユキオ＋金魚『Waltz(ワルツ)』

全国公募によりFFACおススメの作品をお届けする『FFAC PLUS+』の第3弾。しなやかで強靭な身体が奏でる、音楽のような舞台。美しいエネルギーが充満する舞台に、ぜひご期待ください！

日時: 12月13日(金)19:30 / 14日(土)14:00
会場: ぽんプラザホール
振付・演出・美術: 鈴木ユキオ
出演: 安次嶺菜緒・堀井妙子・赤木はるか・鈴木ユキオ
料金: 前売一般2,500円(当日3,000円) / 学生2,000円(前売・当日とも) / 高校演劇部・ダンス部割引500円(要予約・福岡県内のみ)
※セット割引「ニコ割」もあり
【チケット取扱】10月15日(火)発売開始
金魚制作事務所、福岡市文化芸術振興財団、アートリエ(092-281-0103店頭販売のみ)、JCDNダンスリザーブ
問い合わせ先: 金魚制作事務所
Tel: 090-5314-9281 E-mail: kingyo.company@gmail.com

＜関連ワークショップ＞
●冬休み☆子どものためのパフォーミングアーツ
　10代のためのダンスワークショップ　劇的っ！ウィンター
日時: 12月7日(土) / 8日(日)
会場: 福岡市民会館　練習室
進行役: 鈴木ユキオ(振付家・ダンサー)
対象: 小学4年生〜19歳まで。初心者大歓迎！

©Kazuyuki Matsumoto

●大人のためのダンスワークショップ
日時: 12月9日(月)
会場: 福岡市民会館　練習室
進行役: 鈴木ユキオ(振付家・ダンサー)
※詳細は決まり次第、財団ホームページでお知らせします。

第 50 回福岡市民芸術祭
福岡市民会館　50周年記念行事

「福岡市民芸術祭」はこの秋記念すべき50周年を迎えます。これを祝し芸術祭スタートの地、福岡市民会館にて「福岡市民芸術祭50周年記念式典・オープニング公演『祝宴』」を開催します。これを皮切りに様々なイベントが目白押し。芸術の秋を彩ります。

①50周年記念式典・オープニング公演『祝宴』
〜50年に一度のパーティ会場へ、ようこそ！〜
オペレッタ「こうもり」第2幕・舞踏会シーンのお祝いゲストとして、バレエが登場！この機会だから実現した、オペラとバレエ、オーケストラの豪華なコラボレーションが見どころです。
日時: 10月5日(土) 13:30 (13:00開場)
会場: 福岡市民会館　大ホール
料金: 前売一般 2,000円
　　前売学生(大学生以下)・シニア(65歳以上)1,000円
【チケット取扱】　好評販売中！
ローソンチケット　0570-084-008 (Lｺｰﾄﾞ88318)
チケットぴあ　0570-02-9999 (Pｺｰﾄﾞ206-799)
アートリエ　092-281-0103 (店頭販売のみ)
※当日券は各500円増
※未就学児も入場可(着席は学生料金)。託児サービスあり。
※車椅子席あり(5席)。財団までお問い合わせ下さい。

出演:指揮 / 牧村 邦彦　　構成・演出 / 唐谷 裕子
　　福岡市バレエ協会 / 西日本オペラ協会「コンセル・ピエール」
　　/ 九州交響楽団 / 福岡市民芸術祭祝祭合唱団
第1部:福岡市民芸術祭50周年記念式典
第2部:オープニング公演『祝宴』※日本語訳詞上演(字幕付)
　　ヨハン・シュトラウスⅡ / 喜歌劇「こうもり」より抜粋
　　チャイコフスキー / バレエ「眠れる森の美女」より抜粋

②福岡市民会館50周年記念写真展
市民文化活動の殿堂として今も多くの方々に利用されている市民会館の建設時や開館当初の写真展のほか、会館の思い出が語られたインタビューを上映。
日時: 10月21日(月)〜27日(日)　会場: 福岡市役所本庁舎1階ロビー
問い合わせ先: 福岡市経済観光文化局文化振興課
Tel: 092-733-5113 / Fax: 092-733-5537

③参加行事
9月29日(日)から約2ヶ月にわたり、市内の各会場で、芸術活動の発表会やコンサート、美術展など140以上ものイベントが開催されます。

④クロージング公演 50周年記念・第8回福岡文化連盟祭り
『おもしろきこともなき世におもしろく　望東尼』
「勤王の歌人」として歴史上名高い野村望東尼の生涯をたどる演劇を軸に、和洋の舞踊や音楽が融合した舞台劇を開催します。
日時: 12月15日(日)　11:00(10:00開場) / 16:45(16:00開場)
会場: 博多座「市民檜舞台」
料金: 全席指定　前売A席4,000円 / 前売B席2,000円
　　※当日は各500円増
【チケット取扱】9/20(金)チケット発売開始
ローソンチケット / チケットぴあ / アートリエ(092-281-0103 店頭販売のみ)

イベント情報についての問い合わせ先
福岡市文化芸術振興財団　事業課
Tel: 092-263-6265 / Fax: 092-263-6259 / E-mail: pr-co@ffac.or.jp

PICK UP MOVIE

12月7日公開！

利休にたずねよ

極上の茶のごときエンタテインメント
モントリオール世界映画祭受賞！

公式サイト　http://www.rikyu-movie.jp/　9/13チケット発売開始！
主演　市川海老蔵 / 中谷美紀 / 市川團十郎 / 伊勢谷友介/大森南朋

©2013「利休にたずねよ」製作委員会

原作は直木賞受賞作『利休にたずねよ』。利休はなぜ武士でもないのに切腹したのか…その謎には若き日の秘められた恋があった。まったく新しい千利休を歌舞伎俳優・市川海老蔵が全身全霊で演じ、利休の師匠役には市川團十郎が特別出演。最初で最後の親子共演となった。大徳寺、南禅寺など文化遺産でのロケ、茶の名器の数々を使用、幻の「利休の所作」の再現など、どこまでも「本物」を追求した。

鑑賞券とプレスシートのセット　5組10様

PICK UP EVENT

第47回 福岡茶道文化連盟主催福岡市民大茶会

お茶席で優雅な秋の一日を

福岡城内で8流会派が一同にお茶会を開催。お点前を頂くのは心静まる感動のひと時です。千利休は町民の作法、小堀遠州は武家作法の流れ、では他の流派は？　お茶席で違いを楽しんでください。茶券1枚で3席参加できます。

日時:11月3日(祝)　会場:大濠日本庭園 / 福岡市美術館 / 護国神社
8流派:表千家・裏千家・南坊流・宗徧流・大日本茶道学会・
　　遠州流・武者小路千家・薮内流
問合:福岡市茶道文化連盟 Tel: 080-3370-6289(桑野)

福岡市美術館業書５『筑前高取焼の研究』
執筆・編集/尾崎直人
発行/福岡市文化芸術振興財団　3名様

PICK UP GOODS

ピエトロファーマーズスープ

肌寒い季節、体の中からほっこりと

材料や手づくりの工程が多い製法にこだわった通販限定シリーズ「ピエトロファーマーズ」のスープに、この秋、新しい味が登場。温めるだけの手軽さで、お家でレストラン気分を味わえます。グルメな方への贈り物にも。
〈ピエトロファーマーズスープギフト〉 内容量: ①〜⑤各150g ⑥160g
① にんじんの甘味ポタージュ(右上写真)
② 6種野菜と3種豆のミネストローネ
③ 緑の野菜のチャウダー　④ 広島産牡蠣のクリームスープ
⑤ 北海道産とうもろこしで作るコーンクリームスープ(新商品)
⑥ 熊本産牛ばら肉と5種野菜のコンソメスープ(新商品)
ピエトロ通信販売　0120-377-750
http://online.pietro.co.jp/

ピエトロファーマーズ
スープギフト(6食) 3名様
※写真はイメージです。

読者プレゼントの応募方法はP14をご覧ください。

おしゃべりな学芸員

山笠は終わらない！

福岡市博物館　福間裕爾

今年も博多祇園山笠はとっくに終わったのに、何を言っているのか。その通りなのですが、まあ、待ってください。

福岡市博物館では、「郷土福岡の歴史とくらし」を紹介する常設展示を、23年ぶりに一新。それを記念して、北部九州の山笠文化を広く紹介する、「山笠の力 ハカタウツシ」と題した特別展を開催します。じつは現在、この両方を11月3日の文化の日に同時にオープンするべく、その準備で仕事場は大わらわ。喧噪とピリピリした空気のなか、オープンの日を追い山の舁き出しの秒読みに見立てて、みんなで頑張っている…。そんな状況なのです。だから「山笠は終わらない」のです。

でも、なぜ秋に山笠？　という方もいらっしゃるでしょう。北部九州では、博多祇園山笠以外に100ヶ所以上も山笠行事があり、そのうちの2割近くが秋に行なわれているのです。だから「秋に山笠」でもおかしくはないのです。

ハカタウツシとは、聞き慣れない言葉ですが、博多の文化が北部九州一帯に広まり定着したことをこう言います。京都の文化の広まりをいう「京写し」の地方版と考えれば分かりやすいですね。北部九州の山笠を見ると、飾りの姿、人々のファッションや身のこなしなど、あらゆるところに博多との関係が見えてくるのです。ならば、このハカタウツシ、どこまで広がっているか知りたくありませんか。一番遠いのは、なんと北海道です。そんな遠くまでどうして…？　ここに「山笠の力」があるのです。さあ、どんな展覧会なのか興味がわいてきたでしょう。詳しくは、文化の日の博物館で！

福岡市博物館リニューアルオープン記念特別企画・九州朝日放送創立60周年記念事業「山笠の力　ハカタウツシ」展

11月3日（日・祝）～12月23日（月・祝）

770年あまり続く「博多祇園山笠」は郷土の“心の宝”。本展では、博多をはじめ各地の山笠の絵画や歴史資料を通して「博多祇園山笠」の全貌を知り、郷土の魅力を再発見できます。
※特別展の観覧券で新しくなった常設展もご覧いただけます。

福岡市博物館　http://museum.city.fukuoka.jp/

museums&theaters　展覧会情報 10-12月

福岡アジア美術館　Tel: 092-263-1100

スタジオジブリ・レイアウト展

10月12日（土）～1月26日（日）

「レイアウト」とは、一枚の紙にそのカットで表現されるすべての要素が描かれる作品の設計図とも言えるもの。『風の谷のナウシカ』から『風立ちぬ』まで、宮崎駿監督の直筆レイアウトを中心に、約1300点によってジブリ作品の秘密に迫ります。

©「風の谷のナウシカ k」1984 二馬力・GH

プ　招待券　5組10名様　締切10月31日（木）

福岡市博物館　Tel: 092-845-5011

山笠の力　ハカタウツシ

11月3日（日・祝）～12月23日（月・祝）

過去最大級の「舁き山」、博物館グランドホールに150年の時を超え復活！さらに！本年1月より休室していた常設展示室も同日にリニューアルオープンします。　国宝「漢委奴国王」金印からスタートする歴史の旅へ、ぜひお出かけください。旅のゴールも「山笠」です。

山笠ジオラマin
常設展示準備中！

プ　招待券　5組10名様　締切10月31日（木）

福岡市美術館　Tel: 092-714-6051

アール・ブリュット・ジャポネ展

10月1日（火）～11月24日（日）

アール・ブリュット（生の芸術）は正規の美術教育を受けていない人達による芸術。本展は2010～11年にパリで12万人もの来場者を魅了しました。総勢作家63人・600点の作品群が発する力強いエネルギーと豊かな表現から、創造の原点や楽しさを感じられます。

プ　招待券　5組10名様　締切10月21日（月）

九州国立博物館　Tel: 050-5542-8600

尾張徳川家の至宝

10月12日（土）～12月8日（日）

御三家筆頭の大名家・尾張徳川家ゆかりの道具類のうち、太刀や鉄砲等の武具類、茶の湯・香・能の道具類等約230点のほか、国宝「源氏物語絵巻」、国宝「初音の調度」も期間限定で公開します。

国宝 源氏物語絵巻 竹河(二)
平安時代　12世紀　徳川美術館所蔵

プ　招待券　5組10名様　締切10月31日（木）

博多座　Tel: 092-263-5555

北島三郎特別公演

11月4日（月・祝）～12月1日（日）

サブちゃんの熱いステージが帰ってくる！心に響く名曲の数々、そしてド迫力で魅せる北島まつり。9月14日チケット発売開始。

アクロス福岡　Tel: 092-725-9112

チョン・ミョンフン指揮・東京フィルハーモニー交響楽団「トリスタンとイゾルデ」

11月20日（水）17:00～22:00

最高峰のキャストが贈るコンサートスタイル・オペラ。ワーグナー生誕200年イヤーを締めくくる官能の響き！

福岡市総合図書館映像ホール・シネラ　Tel: 092-852-0600

新藤兼人監督特集

11月1日（金）～24日（日）

裸の島

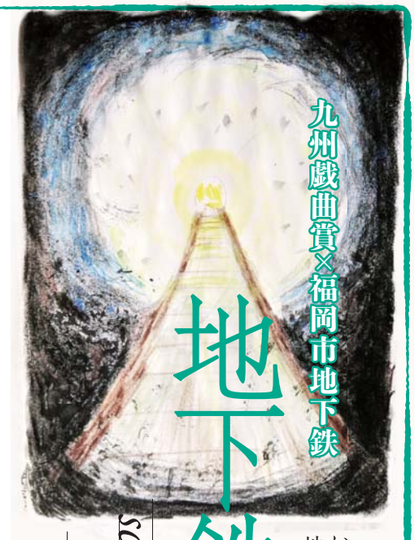
『愛妻物語』『裸の島』『一枚のハガキ』『午後の遺言状』ほか全12本を上映。

読者プレゼント！

下記を明記のうえ、郵便ハガキ、FAX、またはメールにてご応募ください。

①ご希望のプレゼントの美術館・博物館名　②住所・氏名・年齢・電話番号
③『wa』を手にした場所　④よかったページ　⑤興味がなかったページ
⑥本誌以外で、アートに関する情報をどこから得ていますか
⑦本誌や財団に期待すること、ご意見など

応募先：
福岡市文化芸術振興財団　機関誌『wa』編集部
〒810-0802　福岡市博多区中洲中島町3-10 福岡消防会館6F
Fax: 092-263-6259 / E-mail: pr-co@ffac.or.jp



九州戯曲賞×福岡市地下鉄

地下鉄のある街

scene.2

時間旅行

第1回九州戯曲賞大賞受賞

森 馨由

いま九州で活躍する劇作家による、地下鉄を舞台にした読み切りエッセイ。

私の住む街に「地下鉄」はない。だからこそ、地下鉄のある街へ行くと、好んで地下鉄に乗る。そこでしか味わえない時間旅行を楽しむ為に。地上を移動するのと違い、地下はシンプルだ。そして、乗りこなせた時に、僅かな優越感を抱かせてくれる。単純な話、きっと「便利」だから、地下鉄が存在するのだろう。でも、便利という事だけでなく、特殊な魅力があると私は思う。

しかし、初めて乗った時は「一体、どこへ連れて行かれるのだろう？」と不安になった。地下鉄に乗っている人たちが、何故、平然としているのか、その意味も解らなかった。そうして、地下を走る電車の必要性にも全く気付いていなかった。だが、そんな風に恐々と地下鉄の利用を繰り返すごとに、私はその魅力に気付いてしまった。

日常的に地下鉄を利用している人には笑われるかもしれないが…、地下鉄は違う街から来た人を、確実に行きたい場所へ運んでくれる、すごい乗り物だ。便利というより、もう「魔法」のようなものである。行きたい所へ行ける乗り物が、地下を走り、地上に出るまでをサポートしてくれる。地上と違う速度で走っているから、ワープもできる。そうすると、自分の手元に「時間」が残る。そして、また次の目的地へ向かう時、確実にそこへ運んでくれる。地下をすごい速さで駆け抜けて、素早く移動して、また私たちの手元に「時間」を残してくれる。このアイテムを使いこなせたら、たくさんの時間を有効利用できる。

地下鉄の乗り換えは、スピード感が違う。サーカスの空中ブランコのように、コッチの電車から、次はアッチ！と、失敗しないように一瞬で次の電車へ飛び込む。上手く行くと、またまた時間が手に入る。乗り換えの上手な人は、スルスルと人の波を縫って、吸い込まれるように次の電車へ入って行く。それが日常的に地下鉄を利用している人の匠の技なのだろう。あの人、ものすごくアイテム使いこなしてない？と、思わず心で拍手を送る。

しかし以前、私も東京旅行へ行った時、このアイテムを使い、とてつもないスケジュールで観光したことがあった。そうして、すべてクリアできたのだ！　あの時の感動は、未だに忘れられない。一緒にその観光を決行した友人たちと、思わずハイタッチをしたほどに。

毎日地下鉄を利用している人は、それだけ多くの時間を手に入れているのだろうな。そう考えると、本当に不思議だ。人に与えられた時間は、必ず平等であるはずなのに。空間を二分化して、上と下で違う時間の流れがある。それだけで、シンプルかつ確実に、手に入る時間があるのだから。私の住む街には必要のない魔法だが、都会に行くたびに、この魔法を使いたくなる。そこでしか味わえない、その不思議な魔法を。

森馨由　1974年長崎県生まれ。佐世保市拠点の劇団「HIT!STAGE」の副代表・劇作家・俳優。09年『白波の食卓』で「第1回九州戯曲賞」大賞受賞。09年『Case3～よく学ぶ遺伝子～』で「第5回近松賞」最終候補に選出。10/19(土)・20(日)konya-galleryにて新作「Case4～他人と自分～」を公演予定。
詳細は劇団HP/
http://www.geocities.jp/hitstage0402/hitstage.html

九州戯曲賞とは？　九州を拠点とする劇作家の優れた作品を顕彰するため、2009年創設。最終審査員は九州出身又は九州にゆかりの深い著名な劇作家が務める。

おでかけは環境にやさしい地下鉄で。
福岡市地下鉄
1日乗車券 大人600円（小児割引は300円）
さらに土・日・祝は1日乗車券が500円（小児割引は250円）
お客様サービスセンター（各種案内）Tel: 092-734-7800（利用時間：8:00～20:00 年中無休）
http://subway.city.fukuoka.lg.jp
SUBWAY DIET　駅まで歩く、駅から歩く。